

磐城時報

石城郡磐城町字新町十四
編輯兼發行人 岡田 弘成
印刷 所加納活版所
石城郡磐城町字新町十四
電話 一〇四
發行 所 磐城時報社
石城郡磐城町字新町十四
電話 一〇四
廣告料 一行十四字 一月五拾圓
日刊 (日曜、祭日) 休刊

湯本町の公設質屋

認可されたので近く開所

石城郡湯本町では貧民救済の意受検組合を組織し二十七日發會味で資本金三萬圓で公設質屋を式を舉行した。
設く可く其筋に認可申請中の處二十八日附で認可されたので直ちに設立する事になったが、新曆正月には間に合はぬので舊曆未頃から質草を預る事になるであらう。

四倉共濟會で貧困者救済

四倉町の共濟委員新妻盛、松本重吉、警察署長菊地正一、小學校長芝澤實有の各氏は二十八日午前九時から同村役場に會合し貧困者救済の件について協議した。

消防組異動 四倉警察署管内久ノ濱町並に大久消防組

大久組第三部小頭堀口次郎氏辭職、後任堀口義一氏、伍長田廣計二氏辭職、後任新妻茂重氏、同次員浦光堀口光次郎氏、更に大須賀正、猪狩勇次郎氏入組
久ノ濱町 金澤和一、日庭庄之助、遠藤松男、湯山政男入組

米検査組合生る

石城郡夏井村では農家全部から成る生産米受検組合並に小作米

渡邊氏寄附 石城夏井村大字大越字根廻渡邊龜治氏

は過般妻ナミが死亡したので遺善の意味で同村小學校に二十圓男女青年團に十圓を寄附した。

作山氏の講演 相馬郡好間村古河炭礦では演武場を

郡好間村古河炭礦では演武場を建設したが師範として同村字三枝に開き雜誌中堅主幹作山美八氏の講演があつた。

石炭運賃の問題 陳情の結果好成绩

鐵相も好意ある回答 委員萩原義雄氏談
石城郡に於ける町村長並に政友民政兩部會等の石炭運賃値下運動は既報の如く委員七名が上京す滞京二日間にしていづれも二十七日歸郷した委員一同は、先づ九日に常磐炭礦聯合會事務所を訪問同所に於て、城、入山、古河等各炭礦會社重役と會見し同會の顧問たる岡部吾市翁より運動に關し今日までの經過を聴取しそれより鐵道省に至り運輸局長黒澤政務次官、江木鐵相等を順次訪問速に値下實現を期せられたりと陳情した結果、江木鐵相を初め右の諸氏は「從來よりこの問題は研究中であるから諸君の希望に添ふべく努力する」旨の回答に接し同省を辭郡飯豊村では二十九日小學校で「農産物品評會」を開始した。

炭車突落し事件 控訴院で實地檢證

判、檢事二名けよ來山
本年四月二十八日午後十二時頃石城郡内郷村不動澤炭礦に於て坑口から炭車を突落し業務妨害で平支部に於て懲役六箇月を言渡され不服を唱へ宮城控訴院に控訴した元不動澤炭礦々夫村松義雄(三三)は其後審理を續けられつゝ二十九日午後三時宮城控訴院矢部判事外一名並に檢事一名が内郷村に至り平警察署若林司法主任の案内で今晩から今朝にかけて實地檢證を行ふ事になった。

四倉方面 菓子値下げ

四倉警察署管内四倉町、大浦村、大野村、草野村、久ノ濱町、大久村の各菓子製造業者は二十八日組合長長谷川好男氏宅に集合し割乃至三割の値下げを斷行する事に法定した。

家財道具を借りて返さぬ女 訴へらる

町新川町鈴木政治に衣類し返濟方を迫つた隣ハルは前記道具は全部信用組合平庶民金庫から差押へられ競賣に附されたから返されぬといふので始めて詐欺にかつた事が判明したものである。

富山縣に大地入り

「東京電」富山縣氷見郡女良村を中心として二十九日午前十時頃大地入りあり家屋、樹木凡て倒壊し村民は避難中で大騒ぎを演じてゐる。

實地檢證

景を得て目的遂行に邁進することになった。而して組合に於てはまた從來の契約を一切破棄し新に、一、組合企業會社は獨自の立場に於て復活を期すること、二、企業會社は上野野村地内の鮫川本流を入口とする、三、組合はその上流の鮫川支流入野野川より取入れる事、四、未拂込の株式に對しては更に拂込をなさざる事、五、水路の復活に當つては應分の寄附をなすこと、地方民に頗る有利なる新契約を締結されるに至り企業會社組合獨自の立場に於ていよいよ復活を期するの運びとなつた。

農業技術競技會

相馬郡飯豊村農會では十二月十三、十四の二日間農業技術競技會を開催する事になったが競技種目は機械織製その他一般農家の各作業を競技化したもので珍らしき試みである。

水利組合議員選舉

相馬郡石神村、太田村、大壘村の水利組合議員選舉は十二月一日執行の筈。

鮫川堰水利事業

(五) 三十余年前回顧記
企業會社組合は斯く車の兩輪の如き關係にあるを以て組合に於て疏水の復活を期せんことせば先づ以て會社の既得權を取消すか或は組合計劃を變更問題が必然の結果として起つて來た、この秋に至り地方民の記憶より全く遠ざかつてゐた鮫川電力會社は郡山市議會議員荒川池氏を迎へ鮫川内容の整理を開始し組合に對して「復活を期したい」との意を洩らすに至つた。

豐岡村でたこの大漁

石城郡豐岡村大字藤原及比沼の内では最近の大漁あり毎日八百貫乃至一千貫位の大漁で古老の語る處では百年以來嘗てない大漁である、水場相場は一貫目二十五錢乃至二十錢ある

實地檢證

景を得て目的遂行に邁進することになった。而して組合に於てはまた從來の契約を一切破棄し新に、一、組合企業會社は獨自の立場に於て復活を期すること、二、企業會社は上野野村地内の鮫川本流を入口とする、三、組合はその上流の鮫川支流入野野川より取入れる事、四、未拂込の株式に對しては更に拂込をなさざる事、五、水路の復活に當つては應分の寄附をなすこと、地方民に頗る有利なる新契約を締結されるに至り企業會社組合獨自の立場に於ていよいよ復活を期するの運びとなつた。

家財道具を借りて返さぬ女 訴へらる

町新川町鈴木政治に衣類し返濟方を迫つた隣ハルは前記道具は全部信用組合平庶民金庫から差押へられ競賣に附されたから返されぬといふので始めて詐欺にかつた事が判明したものである。

富山縣に大地入り

「東京電」富山縣氷見郡女良村を中心として二十九日午前十時頃大地入りあり家屋、樹木凡て倒壊し村民は避難中で大騒ぎを演じてゐる。

實地檢證

景を得て目的遂行に邁進することになった。而して組合に於てはまた從來の契約を一切破棄し新に、一、組合企業會社は獨自の立場に於て復活を期すること、二、企業會社は上野野村地内の鮫川本流を入口とする、三、組合はその上流の鮫川支流入野野川より取入れる事、四、未拂込の株式に對しては更に拂込をなさざる事、五、水路の復活に當つては應分の寄附をなすこと、地方民に頗る有利なる新契約を締結されるに至り企業會社組合獨自の立場に於ていよいよ復活を期するの運びとなつた。

農業技術競技會

相馬郡飯豊村農會では十二月十三、十四の二日間農業技術競技會を開催する事になったが競技種目は機械織製その他一般農家の各作業を競技化したもので珍らしき試みである。

女中に世話するに欺き 酌婦に賣り飛ばす

前借金を騙取

平町の珍景

水道工監督

石城郡赤井村大字高萩字小路尻
小掠奪太郎(五二)は去る十月三
日午前八時頃同村大字益田字中
島生れ當時田村郡小守新町居住
熊谷大藏の姪熊谷タキ子(十五)
を東京府下池袋町米屋の女中に
世話すると稱し連れ出し埼玉縣
不動岡町人事周旋業小川磯七に
依頼し前借十七圓で同町飲食店
魚屋方に酌婦に賣り飛ばし前借
金を騙取したので平署に告訴さ
れた。

相馬支局通信

火防督勵

相馬郡原

町消防組にては火災期に入つた
昨今一般の注意を促がす爲め二
十八日幹部連毎戸に火防注意を
配布し電の検査を行ひ火の用心
につとめた、お互用心すべきで
ある、なほ夜警は十二月一日よ
り實施する。

狂犬病豫防週間

原町警察署では十二月一日から
原町及び附近の野犬撲殺を行ふ
事となつたが、撲殺届出で者に
は頭二十錢で買上ぐるの事で
ある。

鹿島校品評會

相馬

郡鹿島町小學校疏菜品評會は二
十九日、三十日の兩日兩校に開
催二十九日は相北二町十三ヶ村
青年雄辯大會あり出演辯士非常
に多く何れも熱辯を振へ聴衆者
場に溢れ大盛況であつた。

慨してゐるものもある。
それなら一層の事監督を廢
止してはなごの意見を聞くも
のもあり又之では上院議員諸
公が自動車で疲弊困憊の極に
ある現在の農村を視察する以
上の矛盾であると冷やしてゐ
るもあり、何にしても珍景だ

平町人事

出生 大町坂本幸太郎六女和
子 九品寺前鈴木彌太郎三男
榮、長橋田武井常不衛門三男
賢雄、九品寺前鐵道員鈴木久
彌太三三二磯原町農田大平と
り(二七七)
死亡 月見町根本久次郎(六四)

當る廿八日公開

妻

米川正夫監督作品

東亞特作時代映畫

鞍馬天狗

嵐寛二郎、原駒子主演
巨匠 後藤徳四郎の作品

幕末浪人組

東亞時代映畫映畫

帝キネ現代映畫

からくり紳士

三人の母會根純三監督作品
料普通席二十錢
皆様の有聲座

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・アランク白 1.10
マルソー・ルージュ赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

福島縣平町
山崎合名會社
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五五番

度量衡計量器
吸入酸素器
吸入酸素器
關内藥局
電話四〇番

債券、公債、兩替金融
多田井質店
平町大工町(電話五九一番)

美味、強壯の効
著大
肉を
ふやし
血を
肥やす
スポンジ
錠ニピロクモヘンホツス
圖三價定酒ホツス
圖二價定酒ホツス
店理代
角目丁五町平
局藥邊野山

謹啓 曾祖父馬目太平儀永々病氣
中の處療養不相叶本月二十七日午
後四時死去致候に付此段御通知申
上候
追前葬々の儀は來る十二月一日午後二時自宅出棺
當村清光院に於て佛式相營み申候
昭和五年十一月二十八日
石城郡内郷村
馬目太平治
馬目豊吉
馬目福次郎
親馬目福次郎
成馬目福次郎
高柳金正三郎
總代 高柳金正三郎
代 高柳金正三郎

民謡
小唄
萬歳
行進曲
當二十三日 三日間 毎夜
月三日 限り 午後開
五時場 興樂館
帝部各劇場にて好評を博せし
女流團朝日會來演
民謡界之 ピクチャー・レビュー 和月如月師演
日本一賣子 レコード會社専屬
◎東北巡業歸途に付入場料破額の大勉強
◎驚く勿れ木戸一等 金二十錢
後援 磐城新報社
磐城時報社
常磐毎日新聞社

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九番